

Effect of hematuria on the outcome of IgA nephropathy

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-07-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岩崎, 千尋 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032255

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2938 号	氏 名	岩 崎 千 尋
審 査 委 員 会	主 査 教 授	小 田 秀 明	
論文審査の要旨（400 字以内） IgA 腎症は血尿を特徴とする疾患であるが、その血尿の程度の臨床的意義は不明の点が多い。本研究では、1g/日以上的高度尿蛋白を有し、0.8mg/kgBW のプレドニゾロン内服加療を行った 75 症例を、尿中赤血球が 1 視野に 20 未満の症例(55 例)と 20 以上の症例(20 例)の 2 群に分け、生検時臨床所見、生検所見、尿所見の推移、腎予後を retrospective に比較した。その結果、2 群間では、血圧、腎機能、尿蛋白に差はなく、さらに、腎の病理組織学的相違、ステロイド療法による治療効果にも有意な差は見いだせなかった。これらの研究結果から、IgA 腎症における血尿は硬化病変も含む糸球体病変の存在を示す所見と考えられたが、疾患活動性を反映している可能性は少ないと考察している。 以上、本論文は临床上の疑問に対し、一定の治療を行った対象を集め解析したもので、臨床的・学術的に価値ある論文と考えられた。 本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。（本学学会雑誌に公表）【学校教育法学位規則第 8 条】			